

第44回平和のための「京都の戦争展」開催

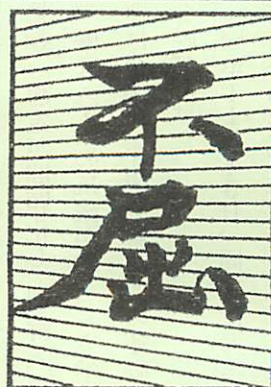
7月29日(月)～8月3日(土)

立命館大学国際平和ミュージアム

治安維持法賠償同盟「文化企画・講演会」

テーマ:「京都関連治安維持法事件・犠牲者」

講師:勝村 誠 立命館大学政策科学部教授



(602号付録)

京都版 第458号

2024年8月15日

治安維持法犠牲者
国家賠償要求同盟

京都府本部

〒604-8832 京都市中京区

壬生下溝町 51-41

TEL: 075-312-8787

FAX: 075-325-3863

E-mail

Info@kokubai-kyoto.com

ホームページ

https://kokubai-kyoto.com

「京都関連治安維持法事件・犠牲者」
『京都学連事件と岩田義道』勝村誠(立命大教授)の講演に
40人参加

第44回平和のための京都の戦争展が開催され、国賠同盟も「治安維持法と京都」のパネル展示を行いました。

また、8月2日は「文化企画」として、治安維持法のDVD上映と「京都学連事件と岩田義道」をテーマに記念講演を行いました。

〈弾圧と抵抗のせめぎあい〉

勝村教授は、戦争の遂行には弾圧体制があり、植民地支配には民族的な抵抗がおこると指摘し、1925年の治安維持法制定に先立ち「日清戦争」のはじまりから解明しました。

1894年の朝鮮半島を舞台にした日清戦争から1910年の日韓併合の期間は、東学農民戦争や抗日義兵運動など日本の侵略に

たいする抵抗運動が高まった。

1909年10月、ハルビン駅頭での朝鮮人・安重根(アンジュン)により前韓国総監の伊藤博文が射殺された。

1910年5月から8月にかけて、天皇暗殺を企てたとする大逆事件の検挙がはじまり、首魁として幸徳秋水らが逮捕された。

初期社会主義者の幸徳秋水(補注:「20世紀の怪物・帝国主義」の著書もある)は安重根を植民独立の殉教者としたる漢詩を作りましたが、その秋水題入りの絵葉書がサンフランシスコで作成されました。

〈なぜ、学生たちは「学連」に結集したのか〉

大逆事件のフレーム・アップにより社会運動は、「時代閉塞の状況」(石川啄木)となった。しかし、ロシア革命やシベリア出兵などから、1918年の米騒動が勃発、民衆の沈黙が破られた。こうしたなか

で、全国の大学や高校に「社会思想研究団体」(社研)などが結成され、1924年9月には学生社会科学連合会(学連)となった。

1925(大正14)年7月に京大で開催された第二回全国大会には、59校約80人の代議員が集まり、全日本学生社会科学連合会(学連)と改称された。学連の最大の闘争課題は「軍事教練反対運動」だった。

1925年4月に陸軍現役将校学校配置令が公布され、中学以上の学校では現役将校による軍事教練が実施され「学校の兵営化」が進んだ。ただし、大学や私立校は申請制とされた。10月15日、小樽高商の軍事教練で朝鮮人の暴動を想定が問題化し、朝鮮人・労働者・学生の抗議がおこった。学連は全国に軍事教練反対の運動を呼びかけた。

同年11月15日、同志社大学校内の掲示板に貼られた「軍教反

対」ビラが特高に押収され、12月1日の第一次京都学連事件として学生が33人(32人説・36人説など諸説あり)検挙された。京大寄宿舎の学生不在にもかかわらず証拠物件の押収が「大学の自治」「研究の自由」侵害で大学からの抗議をうけた。しかし、翌26年1月15日以降第二次京都学連事件として38人が検挙された。学連の労働者教育テーゼの社会科学の資料の「レーニン主義の基礎」の中の「プロレタリアートの独裁」が国体の否定になり、犯罪事実「協議」をしたこととされた。

京都学連事件検挙者の岩田義道の歩んだ道・素描

1926年の第二次京都学連事件の検挙者38人は、すべて旧制中学や旧制高校などを卒業したエリート学生だった。しかし、1898(明治31)年に愛知県に生まれた岩田の両親は、船頭であり、岩

田自身も東京で丁稚奉公をしたり母校の代用教員をしたり、苦学し1913年、15才の時に愛知師範学校に入学した。1917年の卒業年次の夏、名古屋市内の貧民窟やその地域の小学校などを授業参観し、教育だけで貧困の根絶や救済ができるのかと問題意識を持つ。岩田は19才だった。同年10月に愛知県の本曾川西小学校に就職したもの、翌年8月には休職し上京。正則英語学校に入学して、働きながら受験勉強をする。

1919年4月、けがのため東京での苦学生生活を断念し、郷里にもどる。八高の山田盛太郎(後年のマルクス経済学者)を訪ね、河上肇の雑誌「社会問題研究」を借りる。社会の貧困を社会科学する問題意識つよまる。岩田、21才。

その後、1920年9月、22才の時、松山高校に入学し、翌21年3月、岩田は結婚した。

1923年3月に京都帝国大学経済学部に入學した。妻と2人の子をかえる「所帯持ち」だった。彼は「伍民会」が京大社会研究会に発展的に改組された生え抜きだった。こうして、1925年12月に第一次京都学連事件で検挙され、翌26年1月に再検挙された。

26年7月に結核が悪化し釈放。1928年2月共産党に入党し、8月に検挙。1930年10月、保釈。1931年1月、風間丈吉・紺野与次郎らと中央委員会メンバーとなり、地下活動に入る。岩田、32才。1932年10月30日、東京神田で検挙され、11月3日に拷問で虐殺された、岩田34才だった。

岩田の「京都時代」は1923年から1927年ごろまでの5年程度だが、忘れてはならない京都関連の検挙者だ。



第41回全国大会に参加

京都府本副会長・佐藤和夫

国賠同盟第41回全国大会は、6月19・20日、東京の全労連会館で開催され、京都府本から原田完会長と藪田事務局長と私佐藤が参加しました。

吉田万三会長が開会のあいさつで「本大会は、治安維持法100年の節目を前にした大会であり、大きな時代の節目に差し掛かった時期に開かれる大会」と強調しました。

情勢の特徴は戦争国家への道を歩んでいるといえます。この間暴露された裏金問題と岸田総理のいい加減な対応、その一方で「戦争できる国」づくりへの動きは着々と進行しています。戦争できる国家を支える三本の柱は、①憲法改悪・法的整備と大義名分、②実質的な軍備増強、③言論統制・強圧

体制です。

国民的な議論のほとんどないままに武器輸出を解禁し、経済安保を口実にしての国民監視を拡大し、自衛隊の米軍指揮下への再編などがすすめられています。しかも、沖縄・南西諸島の軍事要塞化もなし崩し的に急速にすすめられています。さらに、国が地方自治体に指示という『命令』することを可能にする地方自治法改正は戦時体制づくりを意識したものでいえるでしょう。」と指摘しました。

「いまこそ、再び戦争と暗黒政治を許さない」という国賠同盟のはたす役割からも、また同盟の「謝罪・賠償・名誉回復」の運動の関係をしっかりと学習しようと呼びかけ、このたび同盟中央として『学習テキスト』を発行したと冒頭発言しました。

つづいて、「第41回全国大会の活動報告と運動方針」が、田中事

務局長から報告されました。

とくに、報告案の「新しい戦前」「新しい戦中」という文言について、「新しい戦中」の文言は不正確なので削除するとの一部訂正の報告がありました。

また、「私たちの運動の課題として」、「治安維持法の犠牲者本人のいない同盟活動」をどう展開するのかと問題提起がありました。もともと、同盟は1968年に200人の治安維持法の犠牲者によって創設された謝罪と賠償を要求する団体です。

来年2025年は治安維持法施行100年をむかえ、犠牲者の多くが故人となった現在、請願運動を次の世代にどう継承していくのか、運動体の名称を含め全国的な議論を呼びかけました。

「学習テキスト」では、この問題提起に対する国賠同盟中央本部としての考えも記述して、「戦争する国家づくり」の情勢の下で国

賠同盟運動の存在意義をどう果たしていくのか、それは「2万人同盟の実現」ではないかとよびかけています。

また、渡辺治一橋大学名誉教授が「治安維持法公布100年と日本国憲法」と題して、90分の大会記念講演をしました。

90分の講演で強烈に印象に残ったのは、「治安維持法公布から100年の内、80年は『戦争と暗黒政治』への逆行をゆるさぬ力を国民は発揮してきた。今では9条の会だけで全国に約7000あり、かつまた、国賠同盟も全国にあり、79年間憲法を堅持し戦争しない国を維持してきたことに自信と確信を持とう、『戦争と暗黒政治』を目指す策動は進行しているが、つぶすことは可能だ、憲法は死んでいない」と力よくよびかけました。本場に、勇気とやる気がわく大会でした。

第39回 府本部総会

日時：8月31日（土） 13時30分～16時

場所：長浜バイオ大学京都キャンパス 2階第一講義室

1部 「総会議案」審議

2部 「講演会」

テーマ 京都治安維持法犠牲者・倉岡愛穂など

講師 田中 隆夫氏 兵庫県本部副会長

多くの会員の参加で成功させましょう！

支部 便り

宇治洛南支部

支部長 山崎 恭一

支部総会準備を

全国大会、府本部総会をうけての宇治洛南支部の総会の準備をしています。総会に先立って映画「わが青春つきるとも」を上映し、続いて総会を開く。

新しい役員候補をあげての要請、議案書の草案執筆の分担や検討の日程確認、会場確保などの準備をしています。

7月に役員で会員拡大に取り組み、5軒を訪問しました。すぐに入会とはならない例でも、戦争中の話や治安維持法犠牲者だった父親の話などを聞くことができました。

京都の戦争展での同盟企画「京都治安維持法事件・犠牲者『京都学連事件と岩田義道』」に

参加、弾圧直前の学生社会科学連合会が59校1500人にも広がっていたこと、すさまじい拷問の実態などが印象的でした。

京丹後支部

副支部長 森 勝

9月に支部総会を

京丹後支部は、7月27日に第3回支部委員会を開き（10人出席）ました。

「第16回支部総会」を9月21日（土）午後1時30分～3時30分（予定）、会場は「丹後民主商工会・2階」で開催することを決定しました。

これまでは、支部独自の方針で開催を慣例にしてきましたが、全国大会・府本部総会の日程に添って（6月全国大会、8月31日府本部総会）、総会を9月に設定することにしました。

毎年の諸団体の日程では4月は「倉岡愛穂墓前祭」、5月は国

会請願署名の最終集約で国会へ提出や「京都の合祀追悼祭」「国民平和行進」「平和の鐘」など多くの団体が諸行事を行う時期であり、国賠同盟もこれらの活動に参加しつつ、中央・府本部の方針に沿っての具体化する期間として総会を9月開催に変更することとしました。

総会開催案内状と議案などは「不屈8月号」と一緒に届け、さらに、これまで取り組んできた欠席する同盟委員の「委任状提出」が、形骸化しているの、丁寧に訴えて、多くの同盟員の意見集約・結集につながるよう改善する努力も行う予定です。

総会を成功させ、これを節目として不十分な取り組みとなっている署名推進や同盟員拡大に努力したいと思っています。

